

ISFJ 日本政策学生会議

2008 年度 活動報告書

<http://www.isfj.net/>

代表挨拶



ISFJ 第 13 期代表
早稲田大学政治経済学部
須賀晃一研究会所属
後藤 洋平

団体概要

団体名
ISFJ 日本政策学生会議
結 成
1994 年
代 表
後藤洋平 (2008 年度)
スタッフ
10 大学 14 ゼミ 30 人 (2008 年 12 月現在)
理 念
学生の政策提言による望ましい社会の実現

私ども ISFJ 日本政策学生会議は「学生の政策提言を通じた望ましい社会の実現」を理念とする、非営利の独立学生政策シンクタンクです。学生の柔軟な発想力と鋭敏な感性を武器に、社会が内包し続けた課題に対する画期的な解決策を模索・考案し、作り上げられた政策を社会に対し発信することを目的としております。

この目的を達成すべく、本年度は 2 つのアプローチから学生の政策提言活動の支援を行ってまいりました。1 つは政策市場に通用する政策を考案するための思考法や能力向上です。勉強会や政策シンポジウムなどの企画を通じ、社会に内在する課題の発見や解決策の考案にあたって必要となる、学術的な分析法や実践的な思考法の体得の一助を担いました。もう 1 つが、私どもの本来的な役割でもある実際の政策提言の場の提供です。多くの官僚の方や政策関係者の方々をお呼びした「政策フォーラム」の開催や諸機関に対し学生による政策提言を伝播する機関紙の発行、また実際に政策を履行する自治体や官庁への提言活動を行い、学生による政策が実現につながるべく活動をしてまいりました。

ISFJ の活動も本年で 13 期目を迎え、これらの理念・活動に共感した 28 大学 554 名の学生が参加される日本でも屈指の規模を誇る学生団体となったことは非常に喜ばしいことだと痛感しています。しかし規模の拡大に甘んじることなく、今一度私どもの基本理念である「学生の政策提言による望ましい社会の実現」という考えに立ち返り、よりよい社会を実現するための一端を担う存在となるべく、いっそうの成長・変革を遂げていかなければなりません。

最後に、参加された学生の皆様や私たちの活動にご支援を頂いております協賛企業や後援団体の皆様、研究会でのご指導だけでなく論文審査などにおいて多大なご助力を頂いた教授の皆様に、心より御礼申し上げます。

活動理念

ISFJ 日本政策学生会議は「学生の政策提言による望ましい社会の実現」を理念とし、学生による時代感覚を踏まえた政策立案の支援と政策の実現に向けた発表の場の提供を行っております。

元来、政策とは政治家や官僚といった政策担当者によるトップダウンの形で立案・提言されるものとされており、学生による政策提言を行う意味を疑問視する人もいるかもしれません。しかし、政策は社会全体のためにあるべきものであり、政策担当者による一元的な決定は決して望ましいものではないと私たちは考えます。そしてその意味において、学生による政策提言は非常に大きな意味を持っています。

学生が政策を提言していくことの最大の意味は、柵のない自由闊達な視座からの政策提言を行うことが出来るという点にあると私たちは考えています。私たち学生は所属する大学やゼミなどによって自分自身の行動が制約されることはなく、本当の意味で社会にとって必要な政策提言を行うことが可能となります。柵のない学生という立場から社会全体のニーズを反映した政策を提言することは、政策の受け手からのボトムアップの政策提言と言い換えることができ、真に望ましい政策提言のあり方であると言えるでしょう。

学生による政策提言を通じて望ましい社会を実現するために私たちは 2 つの行動目標を掲げています。ひとつは政策市場に通用する政策を考案するための支援です。学生が政策提言を行うにあたり、これまでの机上の学問を通じて体得した学生の知識や考えを実際の社会問題を解決する政策へと昇華させるための支援が必要不可欠であることは言うまでもありません。

もうひとつは考案された政策を実現するための発表の場の提供です。政策提言の最終目標はその政策の実現を通じた社会の変革であり、政策が発表されることは政策実現の第一歩であると言えます。政策発表は政策の実現可能性を高めるという意味で政策担当者に対して行うことはもちろんのこと、その政策の必要性が広く社会に認知され、その政策が支援されることを目的として学生を含む一般の方に対しても行われます。

これら 2 つの行動目標に基づき、私たちの活動は行われています。そして、私どもの活動を通じて生み出された政策あるいは人材が望ましい社会を実現するための一端を担うことが出来るであろうと確信しています。

2008年度 活動日程

-東日本-

- 5月27、29日【参加ゼミ説明会】
慶應義塾大学 三田キャンパス (27日)
明治大学 駿河台キャンパス (29日)
ISFJ参加者向け説明会
- 6月29日【第1回勉強会】
慶應義塾大学 日吉キャンパス
論文執筆法・論理的思考を実践するグループワーク
- 8月3日【第2回勉強会】
慶應義塾大学 三田キャンパス
政策立案過程・現実の問題に対するグループワーク
- 8月29～31日【政策シンポジウム】
ホテル本能寺会館
同志社大学 今出川キャンパス
日常から問題意識を磨く2泊3日の合宿
- 9月21日【ディスカッショングループ】
慶應義塾大学 日吉キャンパス
参加者間の議論による論文の質向上と、現状確認
- 10月5日【第1回中間発表会】
慶應義塾大学 日吉キャンパス
政策提言論文の中間発表
- 10月26日【第2回中間発表会】
慶應義塾大学 日吉キャンパス
政策提言論文の中間発表
- 12月20～21日【政策フォーラム2008】
慶應義塾大学 三田キャンパス (20日)
明治大学 駿河台キャンパス (21日)
政策提言論文の発表

-西日本-

- 5月24、25日【参加ゼミ説明会】
同志社大学 今出川キャンパス (24日)
大阪大学 豊中キャンパス (25日)
ISFJ参加者向け説明会
- 6月22日【第1回勉強会】
大阪大学 豊中キャンパス
論文をテーマにおいた基調講演/グループワーク
- 8月3日【第2回勉強会】
慶應義塾大学 三田キャンパス
政策をテーマにおいた基調講演/グループワーク
- 8月29～31日【政策シンポジウム】
ホテル本能寺会館
同志社大学 今出川キャンパス
日常から問題意識を磨く2泊3日の合宿
- 9月13、14日【ディスカッショングループ】
大阪大学 豊中キャンパス
参加者間の議論による論文の質向上と、現状確認
- 9月27、28日【第1回中間発表会】
同志社大学 今出川キャンパス (27日)
京都大学 吉田キャンパス (28日)
分析までに焦点を当てた提言論文の中間発表
- 10月18、19日【第2回中間発表会】
京都大学 吉田キャンパス
分析・提言に焦点を当てた提言論文の中間発表
- 12月20～21日【政策フォーラム2008】
慶應義塾大学 三田キャンパス (20日)
明治大学 駿河台キャンパス (21日)
政策提言論文の発表

参加ゼミ説明会

-東日本-

【開催日時】 2008年5月27日(火)、29日(木)

【開催場所】 慶應義塾大学 三田キャンパス / 明治大学 駿河台キャンパス

-西日本-

【開催日時】 2008年5月24日(土)、25日(日)

【開催場所】 同志社大学 今出川キャンパス / 大阪大学 豊中キャンパス

【企画概要】

ISFJでは例年参加を検討しているゼミに対し、活動内容の説明会を開催しております。説明会では、企画のスケジュールやグループ研究による政策提言論文の執筆を行っていただくにあたっての手続き方法などといった事務的な内容だけでなく、「学生の政策提言による望ましい社会の実現」という団体の活動理念やそれに基づいた活動の実績などについて説明を行いました。

説明会では、運営スタッフによる説明だけでなく、昨年度実際に参加されたゼミの学生の方にお話を伺う場も提供させていただきました。

【企画責任者より】

説明会には、「学生の政策提言による望ましい社会の実現」という私たちの理念に共感した、非常に多くの問題意識の高い学生に集まっていただきました。そのような学生の皆様に、私どもの活動についてご理解いただける場を提供できたことは非常に有意義なことであったと確信しております。

グループ研究による政策提言論文執筆とその発表という、殆どの学生が経験したことのない活動に参加するにあたり、実際に参加された学生の話を変えながら説明を行うことで、参加された皆様にはISFJにおける活動をより具体的に理解することができたのではないのでしょうか。また、学生の皆様が参加されるにあたりISFJの活動目的や理念をお伝えすることで、本年度参加される皆様の研究意欲が刺激されたのではないかと感じております。

第 1 回勉強会〈東日本〉

【開催日時】 2008 年 6 月 29 日（日）

【開催場所】 慶應義塾大学 日吉キャンパス

【参加ゼミ】 13 大学 31 ゼミ 102 名

【企画構成】

第 1 部「問題意識発見の視座をいかに持つか」

第 2 部「問題発見の実践」

【テーマ】

第 1 回勉強会は、初めて政策提言論文を執筆する参加者の方々に、政策立案を行うために必要な問題発見能力の定着、発見した問題に対していかにアプローチしていくかということを考える機会を提供する場と位置付けました。また、問題意識の持ち方に対する理解をもとに身近な問題を材料に問題発見から解決へのプロセスを考え、発表するという作業を通じて、論理的な分析や論理の一貫性といった論文執筆に必要な能力を習得することを目指しました。

第 1 部では、慶應義塾大学商学部 跡田直澄教授に問題意識発見の視座についてご講演いただきました。第 2 部では、環境・財政をはじめとする多くの分科会ごとに分け、学生を 4～5 名のグループを構成してグループディスカッションを行い、各教室のコメンテーターの方々からご講評をいただきました。

【講演者】

慶應義塾大学商学部

跡田 直澄 教授

【コメンテーター】

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング

田畑 壽邦様

産業カウンセラー

山田 修様

農林水産省 大臣官房秘書課

長田 恵理子様

財務省 財務総合政策研究所研究部

小黒 一正様

三菱総合研究所

吉田 直樹様

環境省 総合環境政策局

中山 元太郎様

財団法人 日本総合研究所

小林 由里子様

【企画担当者より】

第 1 回勉強会は政策提言論文を初めて執筆される参加者の方々に、論文を執筆する上で必要な問題発見能力を定着させることを目的として行いました。参加者が、グループワークの中で、他の研究会の参加者と共同で問題発見を目的とした議論に取り組み、問題発見を行うための新しい視座の獲得ができ、参加者の皆様にとって今回の勉強会が非常に有意義なものとなったと確信しています。また、グループワークで講師をしていただいた皆様からも学生との交流を通して様々な刺激を受け、充実した時間を過ごすことができたという声を頂きました。



第 1 回勉強会〈西日本〉

- 【開催日時】 2008 年 6 月 22 日（日）
【開催場所】 大阪大学 豊中キャンパス
【参加ゼミ】 9 大学 22 ゼミ 108 名
【テーマ】
第一部「政策論文の書き方」
第二部 グループワーク



【企画構成】

第 1 回勉強会では、参加者の大半が政策論文を書いたことがない 3 年生であることを考慮し、政策をうつまでの流れ・政策論文を書くことの基本を学んでいただくために行いました。今回が今年度初めての勉強会であったため、細かいテクニックなどを学ぶのではなく、政策論文を書く全体像をイメージできるよう企画しました。また、政策勉強会では、各班データをもとに現状を整理し、問題提起を抽出し、その問題に対して政策をうつグループワークを行いました。

【ゲスト】

関西大学経済学部
本西 泰三 教授

【企画担当者より】

第 1 回勉強会では、まだ論文に取り掛かっていない参加者や、論文のテーマを探している参加者が多く、「政策論文がどのようなものか」「先輩たちはどのように論文執筆を進めたのか」などを知っていただくことができ、有意義になったのではないかと思います。講演も、「政策論文の書き方」についてわかりやすく丁寧に講演してくださり、非常に好評でした。昨年度参加論文の発表は難しかったようですが、その論文を理解することが目的ではなく全体像をつかんでもらいたかったため、それに関しては成功したと思います。

グループワークについては、参加者に与えるデータを洗練する必要があったと感じましたが、その中でも、他大学の参加者同士で共に現状整理から政策提言まで議論し、発表したことにより、グループで協力して考えること、また論文を書く流れを感じていただけたと思います。ゲストの方々からも、とても熱心にコメントをいただき、参加者も運営も勉強になりました。

第2回勉強会<東日本>

- 【開催日時】 2008年8月3日(日)
 【開催場所】 慶應義塾大学 三田キャンパス
 【参加ゼミ】 13大学25ゼミ109名
 【テーマ】

- 第1部「論文の執筆方法」
 第2部「ロジカルシンキング講座」

【企画構成】

第2回勉強会は、参加者の方々に対し、問題意識から政策を提言するまでのプロセスに必要な論理的な議論を行う能力とともに、一連の議論と研究成果を論文という形に落とし込むための意識の持ち方を習得していただくことを目的としました。

第1部では、論文執筆にあたって、研究の進め方や論文執筆方法について、早稲田大学政治経済学部 須賀晃一教授よりご講演いただきました。

第2部では、5人程度のグループに分かれ、制約条件下での最適な解決策の提示とその論拠の説明を行うグループワークを通して、論理的思考力の定着を図りました。

【講演者】

早稲田大学 政治経済学部
 須賀 晃一教授

【コメンテーター】

慶應義塾大学 政策・メディア研究科講師
 西山 敏樹様
 株式会社ガイアックス
 木村 智浩様
 株式会社ガイアックス
 大嶋 直子様

アクセンチュア株式会社
 胎中 康幸様
 農林水産省 大臣官房秘書課
 笠原 健様
 産業カウンセラー
 山田 修様

【企画担当者より】

第2回勉強会は、政策提言を行うにあたって必要となる議論の一貫性に焦点を当て、参加者の方々に、論理的思考力を体得していただくことを目標としました。

第1部の全体講演では、論文執筆のポイントを真剣にメモする参加者の姿が多く見られました。

第2部では、問題発見から結論を導くまでのロジックを考えるグループワークを通して、一貫した議論の立て方を学んでいただけたと思います。

アンケートでは多くの参加者から「充実していた」「ためになった」とのお声をいただき、今回の勉強会が論文執筆における足がかりになったと確信しております。



第2回勉強会〈西日本〉

- 【開催日時】 2008年8月3日(日)
 【開催場所】 同志社大学 今出川キャンパス
 【参加ゼミ】 13大学21ゼミ91名
 【テーマ】
 第一部 基調講演「財政政策とは？」
 第二部 グループワーク



【企画構成】

第2回勉強会では、「政策提言のプロセス」というテーマで現状を整理し、そこから問題点を抽出し、改善する政策を立案、発表していただきました。具体的には、夕張市を取り上げてグループワークを行いました。より現実的な政策提言を行うために、テーマを財政に限定し夕張市の財政破綻する以前の資料を用いて「第二の夕張市」を生み出さないための財政政策を立案していただきました。

【講演者】

大阪市議会議員
 福島 しんじ様

【コメンテーター】

大阪府議会議員
 朝倉 秀実様
 西宮市議会議員
 田中 正剛様
 尼崎市行政経営推進室調整課
 江上 昇様

【企画担当者より】

第2回勉強会は、「政策提言のプロセスを学ぶ」というテーマでグループワークを行いました。政策論文を書く上で必要となる財政に焦点を当て、参加者の方々に事前学習をしていただくことは今までのISFJの勉強会にない初めての試みでしたが、とても有意義だったのではないかと、思います。基調講演は福島様に大阪府について、夕張市の破綻の要因や財政再建計画を例に、話していただきました。参加者にはグループワークの内容の基礎知識を基調講演で学んでいただき、非常に好評でした。グループワークでは、事前学習を前提としていましたので、参加者間で議論に格差が生じていたとはいえ、テーマに実際の市を用いたことや、政策を財政に限定したこと、自分達が持ち寄ったデータをグループでまとめること、これらのことが出来、とても現実性の高い政策提言が行われていた、と感じられました。また、ゲストコメンテーターの方々も積極的に議論に参加していただき、第2回勉強会は成功であったと思います。

政策シンポジウム

【開催日時】 2008年8月29日（金）～31日（日）

【開催場所】 ホテル本能寺会館 / 同志社大学今出川キャンパス

【参加ゼミ】 10大学13ゼミ38名

【目的】

今回の政策シンポジウム2008の目的は、フィールドワークをはじめとする多面的な考察の重要性を促すこと、そして京都市長への政策提言を通じて実際に京都という社会に学生の力で影響を与えることでした。中でも、企画の中心であるグループワークは、「身近なことから社会を変える」をテーマに、京都という地方都市のほんのささいな問題を考察することを、日本をよりよくする第一歩にしたい、という意図で行いました。

【企画構成】

1日目は西宮市市議会議員の今村 岳司様と同志社大学法学部教授の村田 晃嗣様をお招きして「身近なことの重要性」をテーマにご講演をいただきました。その後、参加者が打ち解けるために行ったアイスブレイクを通じて自分の周りで起きている身近なことへの関心をより高めていただきました。その後行ったグループワークでは、実際に京都市が行っている事業を参考に各グループで私たちが事前に提示した政策のなかから興味を持つ分野をいくつか選択してもらい、それぞれについて議論しました。翌日フィールドワークを行う場所(実際に政策が行われている場所)も決めていただきました。夜には、グループ内に留まらず、参加者全体で交流をさらに深めていただくため、交流会を開催しました。お酒を交えながら、普段の論文作成における意見の交換や今回のイベントに対する意気込みなどについて語り合いました。

2日目は京都市内のフィールドワークを各グループで行って実際の政策実行現場を見学してもらい、そのうえで政策が京都の抱えている問題を解決するために有効かを検証していただきました。フィールドワークの後、学生独自の視点を取り入れた政策を考えていただきました。

3日目は同志社大学に会場を移し、国立情報学研究所情報社会相関研究系助教、上田 昌史様の前で発表させていただき、提案した政策の問題点等を指摘していただきました。その後指摘いただいた問題点を解決した後、京都市市長の門川様の前で政策を発表させていただき、各グループの発表に対して門川様よりご講評をいただきました。

【講演者】

西宮市 市議会議員
今村 岳司様
同志社大学 法学部
村田 晃嗣教授

【コメンテーター】

京都市長
門川 大作様
国立情報学研究所 情報社会相関研究系
上田 昌史様

【企画担当者より】

講演により「身近なことに気づく重要性」がわかっていただけたと思います。その後のアイスブレイクでは、何気なく見過ごしてしまっていることをクイズ形式で出題することで、身近なことをいかに意識せずいたかわかっていただけたのではないのでしょうか。

その後のグループワークで現在の京都市が行っている政策をデータの上で見ていただくことにより京都市への関心を持ってもらおうと同時に、京都市がどのような問題に積極的に取り組んでいるのかがわかっていただけたと思います。

フィールドワークで 1 日目のデータから興味を抱いた政策が行われているところへ実際に足を運んでいただき、データだけではわかりえない現状を見ていただきました。参加者の中には時間の許す限りフィールドワークを行った班もあり、大変充実したフィールドワークになったと思います。一方で、雨が降っていたこともあってか数時間で戻ってきた班もあり、より充実したフィールドワークを行っていただくには？という運営側の課題も浮き彫りになりました。

発表では京都市市長門川様の前で各班の考えた政策を発表していただきました。市長の前ということで緊張をしまっている班もありましたが、学生らしい目新しい政策も数多く出されました。

ディスカッショングループ〈東日本〉

- 【開催日時】 2008年9月21日（日）
【開催場所】 慶應義塾大学 日吉キャンパス
【参加ゼミ】 12大学32ゼミ
【目的】

「さらなる論文の質の向上」

【企画構成】

研究テーマの類似する研究班ごとに分科会を組み、現段階での研究成果のプレゼンテーションと質疑応答を行うことによって、各自の進捗状況および研究の方向性の見直しをしていただきました。また、プレゼンテーションならびに質疑応答を行う際に、学生の視点で議論を進めることにより、自由闊達で柔軟な発想を喚起することも目的の一つとしました。

第一部・第二部ともに事前に提出された研究方向性報告書に基づいて構成された分科会に分かれ、発表を行いました。1分科会に3ないし4研究班を振り分け、各班の進捗状況のプレゼンテーション、それに対する質疑応答を行いました。

【企画担当者より】

ディスカッショングループではコメンテーターをお招きしなかったかわりに、柔軟な視点に基づいた学生間での議論を行うことを目的としました。また、ここでの議論を今後の論文執筆に活かすべく、発表に対する質疑応答と合わせて他研究班からの客観的な意見を頂くことができる「コメントシート」を導入しました。これにより、質疑応答の時間では得られなかった鋭い意見や新たな着眼点を得ることができ、今後さらに本格化する研究の方向性を再度見直すことのできる、良いきっかけになったと確信しています。また、テーマの類似する研究班ごとに分科会の振り分けを行ったことで、参加者間での問題意識や情報の共有ができたことも成果の一つとして挙げる事が出来ます。さらに、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行うことによって、他者に自分の意思や状況を伝える難しさも理解していただけたと感じています。目先に迫る中間発表会ひいては最終的な政策提言の場である政策フォーラムにむけて、参加者同士の研究内容や分析方法を見直す機会として、この企画は大いに意味を持つものであったと考えています。



ディスカッショングループ<西日本>

【開催日時】 2008年9月13日(土)、14日(日)

【開催場所】 大阪大学 豊中キャンパス

【参加ゼミ】 11大学22ゼミ109名

【テーマ】

「さらなる論文の質の向上」

「発表の練習」

【企画構成】

ディスカッショングループでは途中段階の論文を学生間の議論によりブラッシュアップすることが出来るように企画しました。

論文の内容やテーマによって1教室3~5班から構成される分科会を作り、全9分科会で、各教室にわかれ、ディスカッションを行いました。ディスカッションは、論文の進捗について発表を行い、その発表への質疑応答を含めて議論するという形で行いました。その後、コメントシートにより、自分以外の論文に対して、評価とコメントを行っていただきました。

【企画担当者より】

ディスカッショングループでは、各分科会に一定以上の班を確保しようとしたため、多少テーマの違う論文を同じ分科会にしました。しかし、議論が活発になった反面、テーマに適していない分科会があったとも感じられました。しかし、事前に知識のない人が、どのようなところに疑問を持つかなど、新しいことも知れ、多くの新しい発見があり、有意義であったと思っています。ゲストの方をお呼びせず、学生だけで議論を行ったため、気兼ねなく質問や意見を述べる事が出来ました。また、どのぐらいの頻度で班員が集まるか、論文をどのように進めているかなど論文の内容とは関係が薄いですが、論文執筆には非常に重要な情報の共有もできました。



第1回中間発表会〈東日本〉

【開催日時】 2008年10月5日(日)

【開催場所】 慶應義塾大学 日吉キャンパス

【参加ゼミ】 14大学30ゼミ207名

【テーマ】

「実務的観点から政策提言の有効性を検討する」

「論文内容の充実」

【企画構成】

第1回中間発表会では、類似した研究テーマで論文を執筆してきた3～4の研究班で構成される分科会ごとに、執筆途中の政策提言論文の中間報告を行いました。ゲストコメンテーターには実際に政策立案に携わっている方々や、専門に研究を行っている方々など、現場でご活躍されている実務家の方々をお招きし、参加学生が現段階まで執筆してきた論文内容が実際の社会の問題と整合性を持つか、また、提言しようとしている政策が現実社会の問題に対して実用性を持つか等の観点からご意見を頂くことで、論文内容のより一層の充実を図ることを目的としました。そして、今後論文執筆を進めていく上での修正点・改善点を認識して頂く機会として位置づけました。

【コメンテーター】

＜財政分科会＞

世界平和研究所 研究員

小黒 一正 様

＜環境分科会＞

三菱総合研究所

吉田 直樹 様

環境省 総合環境政策局

島田 智寛 様

環境省 総合環境政策局

中山 元太郎 様

＜国際政策分科会＞

JETROアジア経済研究所 研究支援部

二村 泰弘 様

みずほ総合研究所 調査本部政策調査部

塚越 由郁 様

＜地域政策分科会＞

株式会社KCS 取締役

室谷 亮 様

財団法人 地域開発研究所 研究部

牧瀬 稔 様

＜都市政策分科会＞

株式会社KCS 代表取締役

天野 洋文 様

＜社会保障分科会＞

厚生労働省 社会保障担当参事官室

山田 章平 様

日本総合研究所 副主任研究員

小林 由里子 様

茅ヶ崎市議会議員

海老名 健太郎 様

厚生労働省 社会保障担当参事官室

古川 弘剛 様

＜労働分科会＞

独立行政法人 労働政策研究・研究機構

藤本 真 様

＜産業政策分科会＞

独立行政法人 経済産業研究所 副所長

佐藤 樹一郎 様



<農業分科会>

参議院 農林水産委員調査室 室長
鈴木 朝雄 様
農林水産省 大臣官房秘書課 企画第一班
笠原 健 様
全国農業会議所 新聞事業本部長
池田 辰雄 様

<金融分科会>

金融庁 総務企画局企業開示課 課長補佐
藤岡 隆雄 様
経済金融アナリスト
津田 栄 様

【企画担当者より】

第1回中間発表会は、参加者の皆様が実際に政策立案に携わっている実務家の方々からご意見を伺うことにより、論文内容のより一層の充実を図ることを目的に行いました。学生が政策提言論文を執筆する過程において、その研究の方法となるものは先行研究を精査する、もしくは専門書や参考文献・データ等を調べるといったことが主になり、学生が現実社会での経験に裏打ちされた研究を行える環境を作り出すことは難しいといえます。そのような研究から考案された政策は机上の空論になってしまい、現実社会の問題を十分に反映していないという結果を招く恐れがあります。そういった意味で、今回の第1回中間発表会において、実際に社会で豊富な経験を積んだ実務家の方々から学生では気付くことができないような観点からアドバイスを頂けたことは、参加者の皆様にとって大変有意義な経験になったのではないかと考えております。

発表会終了後もなお、参加者の皆様が積極的にコメンテーターの方々に意見を求める様子が見受けられ、活発な議論を交わしていました。また、多くの参加者の皆様から、「これからの研究の方向性を改めて考える良い機会になった」等の声を頂きました。

今回の中間発表会が、今後参加者の皆様が現実社会の問題との整合性といった観点にも目を向けると共に、政策市場に通用するような、より実効的な政策提言論文を執筆していく上でとても有益なものになったと確信しております。

第1回中間発表会〈西日本〉

【開催日時】 2008年9月27日(土)、28日(日)

【開催場所】 27日：同志社大学 今出川キャンパス 28日：京都大学 吉田キャンパス

【参加ゼミ】 11大学30ゼミ184名

【テーマ】

「政策提言の有効性を検討する」

「論文内容の充実」

【企画構成】

ディスカッショングループでの議論をふまえ、第1回中間発表会では「現状・問題意識」「分析の方向性」についての中間報告書を事前に書いていただきました。当日は、論文ごとに似たテーマ・カテゴリーのもので分科会を構成し、自分たちの作成した中間報告書を有識者の方々の前で発表していただきました。それについて有識者の方々からご意見をいただき、今後の論文執筆に役立てていただけるようにしました。

【コメンテーター】

＜金融分科会＞

同志社大学 経済学部

八木 匡教授

＜産業分科会＞

立命館大学 経済学部

古川 彰教授

同志社大学 経済学部

八木 匡教授

＜環境分科会＞

大阪市立大学 商学部

畑 明郎教授

大阪学院大学 経済学部

古川 淳教授

＜国際分科会＞

国立情報研究所

上田 昌史様

＜都市政策分科会＞

大阪市立大学大学院 創造都市研究科

小長谷 一之教授

大阪市立大学大学院 創造都市研究科

永田 潤子準教授

同志社大学大学院 総合政策科学研究科

壁谷 順之様

大阪商科大学

横見 宗樹様

＜医療分科会＞

大阪大学大学院 医学系研究科

濱田 吉之輔様

大阪大学大学院 医学系研究科

黒木 尚長様

京都大学大学院 経済学研究科

行本 雅様

＜教育分科会＞

堺市教育委員会

東 孝彦様

＜行政分科会＞

関西大学 経済学部

林 宏昭様

丹波市財務部財務課

木村 成志様

＜労働分科会＞

関西学院大学大学院 客員研究員

林 智子様

【企画担当者より】

同じ分科会で他班の発表を聞くなかで、プレゼンの参考になったという意見や、自分たちの進捗とくらべることで危機感を持っていただけたということは大変有意義だったと思います。第1回中間発表会では、「現状・問題意識」「分析の方向性」について各班でまとめ、それを発表し、意見をいただいて今後の第2回中間発表会、ひいては政策フォーラムにむけて論文を再考していただくことを目的にしていました。この点において、参加者の方もしっかりまとめてきてくださっていました。ゲストの方からもそれぞれの論文について多くの貴重な意見をいただきました。

第 2 回中間発表会<東日本>

【開催日時】 2008 年 10 月 26 日 (日)

【開催場所】 慶應義塾大学 日吉キャンパス

【参加ゼミ】 15 大学 30 ゼミ 178 名

【テーマ】

「学術的観点から政策提言の有効性を検討する」

「論文内容の充実」

【企画構成】

第 2 回中間発表会では、最終論文提出まで残り 1 カ月を切り、どの論文班もある程度論文の方向性が固まった上で、政策提言論文の中間報告を行いました。ゲストコメンテーターには大学教授をお招きし、学術的な観点からご意見を伺うことで現状分析から政策提言の展開において論理の一貫性があるか等についてご意見を伺うことにより、論文内容をより質のよいものとするを目的としました。

【コメンテーター】

<財政分科会>

明治大学大学院グローバルビジネス研究科

木村 哲 専任教授

立教大学 経済学部

関口 智 教授

<金融分科会>

早稲田大学 商学学術院

西村 吉正 教授

<社会保障分科会>

帝京大学 経済学部

川本 敏 教授

<医療分科会>

学習院大学 経済学部

遠藤 久夫 教授

<環境分科会>

東京工業大学 助教

長谷川 紀子 様

東京大学大学院 農学生命研究科

川島 博之 准教授

<農業分科会>

東京農工大学 農学部

斉藤 広隆 准教授

千葉大学大学院 園芸研究科

斉藤 修 教授

千葉大学大学院 園芸研究科

大江 靖雄 教授

<都市政策分科会>

早稲田大学 芸術学校

卯月 盛夫 教授

<地域政策分科会>

法政大学 人間環境学部 人間環境課

石神 隆 教授

横浜国立大学大学院 環境情報研究院

三井 逸友 教授

立教大学 法学部 法学科

中村 陽一 教授

<労働分科会>

一橋大学 経済研究所

池永 肇恵 准教授



<産業政策分科会>

早稲田大学 政治経済学術院
堀内 俊洋 教授

<国際政策分科会>

明治大学 商学部 講師
森元 晶文 様
経済同友会 企画・政策調査担当
田幸 大輔様

【企画担当者より】

第2回中間発表会では、参加者の皆様に第1回中間発表会でゲストの方々から頂いたアドバイスを受けて執筆してきた論文の中間報告をして頂きました。第一回中間発表会において実務家の方々をお招きし政策提言論文の現実社会との整合性という観点に着目してご意見を頂いたのに対し、第2回中間発表会では、大学教授をゲストコメンテーターとしてお招きし、学術的なアプローチに重点をおいてご意見を頂くことで、論文内容のより一層の充実を図りました。各分科会の教室では参加者がゲストコメンテーターの方々のご意見に熱心に耳を傾けている姿が見受けられ、質疑応答では同分野で論文を執筆している参加者同士熱心な議論を交わしておりました。また、最終論文提出まで一か月を切ったこの時期に分科会内の他論文班の進捗状況を知ることができたことは、今後の論文執筆に向けてのよい刺激となり、今回の中間発表会が有益なものになったと確信しております。

第2回中間発表会〈西日本〉

【開催日時】 2008年10月18日(土)、19日(日)

【開催場所】 京都大学 吉田キャンパス

【参加ゼミ】 11大学29ゼミ201名

【テーマ】

「学術的観点から政策提言の有効性を検討する」

「論文内容の充実」

【企画構成】

第2回中間発表会は「政策提言」まで含めた内容で中間報告書を事前にも書いていただきました。論文ごとに似たテーマ・カテゴリーで分科会を構成し、自分たちの作成した中間報告書を有識者の前で発表していただきました。それについて有識者の方々から意見をいただき、今後の論文執筆に役立てていただけるようにしました。

【コメンテーター】

〈国際政策分科会〉

龍谷大学 経済学部

國枝 貞真 教授

京都産業大学

岑 智偉 准教授

京都大学大学院 経済学研究科

黒田 敏史 様

〈医療分科会〉

同志社大学 政策学部 講師

白瀬 由美香 様

京都産業大学 経済学部

福井 唯嗣 准教授

京都橘大学 経済学部

高山 一夫 准教授

〈都市政策分科会〉

京都大学 大学院 経済学研究科

文 世一 教授

同志社大学大学院 総合政策科学研究科

新川 達郎 教授

〈環境分科会〉

国立情報研究所

上田 昌史 様

〈教育分科会〉

大阪市立大学 経営学研究科

川村 尚也 准教授

堺市教育委員会 事務学校教育部長

東 孝彦 様

〈行政分科会〉

関西大学大学院 研究員

入江 啓彰 様

関西大学大学院 研究員

林 智子 様

兵庫県丹波市 財務部財務課

木村 成志 様

〈労働分科会〉

同志社大学大学院 総合政策科学研究科

壁谷 順之 様

大阪経済大学 経済学部 講師

山口 雅生 様



<産業分科会>

立命館大学 経済学部

古川 彰 教授

兵庫県丹波市 企画部合併室 主査

磯崎 広之 様

京都大学大学院 経済学研究科

山下 功 様

<金融分科会>

同志社大学 経済学部

八木 匡 教授

【企画担当者より】

第2回中間発表会では第1回中間発表会でのコメントを受けて、参加者の方々に政策提言を含めた中間報告書を書いていただき、有識者の方々にむけて、発表していただきました。有識者の方々に、自分たちの論文を評価していただいたことで、最終論文を書く上で何が自分たちの論文には欠けているのが確認でき、よかったですと思います。ゲストの方々からもそれぞれの論文について様々な貴重な意見をいただきました。そういったところからみても今回の中間発表会の企画は成功だったと感じております。

政策フォーラム 2008

【開催日時】 2008年12月20日（土）、21日（日）

【開催場所】 20日：慶應義塾大学 三田キャンパス 21日：明治大学駿河台キャンパス

【参加ゼミ】 28大学58ゼミ 554名

【企画構成】

本フォーラムは、これまで参加者の皆様が執筆してきた政策提言論文を基に、現状分析およびその解決策としての「政策」を広く一般大衆に発信する場として位置づけて行いました。全国のISFJにおける論文執筆活動の参加学生が一堂に会し、各分科会での研究発表には、実際に政策立案に携わっていらっしゃる官僚の方やシンクタンクの方を中心にゲストとしてお招きいたしました。

類似したテーマで研究を行ってきた学生同士、また実務家の方々と交えたディスカッションを通して、現実社会の問題を的確に捉えているか、そして真の解決策として機能するかを論点として考察していただきました。

また、これまで参加者の皆様が行ってきた「学生からの政策提言」、そして一国民が政策について考察することの意義をテーマとした講演会やパネルディスカッションを行いました。

【企画内容】

開会式

各テーマに応じて構成された分科会ごとの発表

パネルディスカッション

基調講演

表彰式

閉会式

【パネルディスカッションテーマ】

学生からの政策提言～次代を担うリーダーの萌芽～

【パネラー】

政策研究大学院大学長

八田 達夫様

同志社大学政策学部教授

風間 規男様

一橋大学国際・公共政策大学院長

渡辺 智之様

【基調講演テーマ】

「民」からの政策提言～その意味と実現性～

【講演者】

構想日本 代表

加藤 秀樹様

【コメンテーター】

<財政>

世界平和研究所 研究員

小黒 一正 様

富士通総研 経済研究所

長島 直樹 様

東京財団 政策研究部 研究員

佐藤 孝弘 様

<金融分科会>

日本銀行 金融研究所 参事役

高橋 英行 様

金融庁 総務企画局 企業外事課

藤岡 隆雄 様

経済ジャーナリスト

松崎 隆司 様

経済金融アナリスト

津田 栄 様

日本政策投資銀行 設備投資研究所

小田 圭一郎 様

<環境分科会>

環境エネルギー政策研究所 所長

飯田 哲也 様

三菱総合研究所 主任研究員

吉田 直樹 様

日本総研 創発戦略センター 主任研究員

井上 真壮 様

環境省 総合環境政策局

島田 智寛 様

<農業分科会>

参議院 農林水産委員会 調査室

大川 昭隆 様

株式会社日本総研 創発権戦略センター

三輪 泰史 様

<都市分科会>

国土交通省 政策統括官付 参事官

坂本 慶介 様

日本都市センター研究室 研究員

中西 規之 様

防災ネットワークプラン 代表

井上 浩一 様

財団法人日本システム開発研究所

山田 美由紀 様

防災・危機管理ジャーナリスト

渡辺 実 様

日本地域開発センター

北川 泰三 様

ふるさと回帰総合政策研究所

玉田 樹 様

<交通分科会>

計量計画研究所 都市・交通研究部 部長

鈴木 奏到 様

慶應義塾大学 商学部

中条 潮 様

<産業分科会>

総務省 情報通信政策研究所

海野 敦史 様

文化庁長官官房著作権課

川瀬 真 様

内閣官房副長官補室 参事官補佐

近藤 裕之 様

参議院議員

藤末 健三 様

経済産業調査会 理助長特別補佐

岡村 信克 様

経済産業研究所 副所長

佐藤 樹一郎 様

<医療・介護分科会>

学習院大学経済学部 教授

遠藤 久夫 様

日本看護協会 専門職支援中央 NC 事業部

奥村 元子 様

衆議院議員

高山 智司 様

厚生労働省 医政局 総務課 企画法令係

石毛 雅之 様

日本看護協会 政策企画部長

斉藤 訓子 様

厚生労働省 医政局 国立病院課

伊藤 秀俊 様

日本医療政策機構医

小野崎 耕平 様

<労働分科会>

日本経済研究センター

猿山 純夫 様

労働政策研究・研修機構

濱口 桂一郎 様

株式会社 C&S コンサルタンツ代表取締役

竹生 孝夫 様

株式会社産業政策計画研究所 代表取締役

柳橋 正廣 様

労働政策研究・研修機構 人材育成部門

藤本 真 様

産業カウンセラーCDA

山田 修 様

<教育分科会>

一橋大学 国際戦略本部 准教授

太田 浩 様

財団法人 日本システム開発研究所

山田 美由紀 様

<少子高齢化分科会>

国立社会保障・人口問題研究所

佐々井 司 様

内閣府 政策統括官付 参事官付

若林 拓 様

<行政分科会>

国立情報学研究所 助教

上田 昌史 様

株式会社産業政策計画研究所 代表取締役

柳橋 正廣 様

<国際分科会>

国立情報学研究所 助教

上田 昌史 様

国際協力機構 JICA 研究所 研究支援課長

田中 啓生 様

日本総研 創発戦略センター 主任研究員

井上 真壮 様

日本貿易支援機構 アジア経済研究所

二村 泰弘 様



【受賞論文】

＜最優秀論文賞＞

神戸大学 松林洋一研究会

「市民が守る安全な街づくり～橋本大阪府知事への三つの提案～」

＜政策提言賞＞

明治大学 加藤久和研究会

「CO2 削減に向けての自動車税制～達成可能な税制とは～」

＜優秀論文賞＞

千葉大学 倉坂秀史研究会

「西千葉駅周辺における違法駐輪・放置自転車への対策」

中央大学 横山彰研究会

「実効的なポスト京都議定書に向けて～差異ある責任原則の再検討～」

【企画担当者より】

政策フォーラムは、参加学生が所属研究会の活動を通して考察してきた政策を発信する場として企画しました。学生からの自由闊達な視点によって生み出された政策を一般の方々に知っていただくと同時に、現行の「政策」に対して何らかのプレゼンスを発揮することの出来る方々をゲストとしてお招きすることにより、実社会に対して学生がアクションを起こす一つの機会として位置づけています。

各分科会の研究発表では、類似したテーマを扱う論文班を組み合わせ、所属研究会、所属大学の枠を超えて議論を交わしていただきました。また、関係省庁やシンクタンク、国会議員の方々にご意見を伺うことにより、新たな視座や問題意識を持っていただけたのではないのでしょうか。

政策フォーラムは ISFJ における活動の集大成でありながら、分析を基に生み出した政策の実現という新たなステップへ進むためのスタートラインでもあります。単なる論文執筆にとどまらず、政策の実現に向けた機会の提供こそが、政策フォーラムの企画趣意であり、ISFJ の存在意義であると考えております。

参加者の皆様には、本年度の活動を踏まえて更に研究を進めていただくとともに、政策のあり方について、今一度考えていただく良いきっかけになったのではないかと考えております。



財務報告 (1月18日現在)

支出		収入	
科目	金額	科目	金額
1. 関東イベント運営費	407,640	1. 論文参加費	416,000
関東参加ゼミ説明会	2,650	関東論文参加費	236,000
関東第1回勉強会	11,688	関西論文参加費	180,000
関東第2回勉強会	16,638	2. 政策シンポジウム参加費	870,190
関東ディスカッショングループ	450	3. 協賛金収入	1,179,475
関東第1回中間発表会	15,140	富士通株式会社	200,000
関東第2回中間発表会	15,763	株式会社ディーエイチシー	150,000
政策フォーラム	345,311	極東証券株式会社	150,000
ゲストお礼代	75,000	株式会社ベインキャリアジャパン	100,000
優秀論文特典	100,000	松下電器産業株式会社	100,000
表彰状代	2,016	加藤産業株式会社	99,475
特審会議費	290	株式会社ダイヤモンド・ビッグ&リード	60,000
印刷費	348	株式会社キャリアデザインセンター	50,000
事務備品費	4,157	株式会社有斐閣	50,000
パンフレット代	72,864	住友化学株式会社	50,000
フライヤー代	33,200	株式会社アシストバルール	50,000
ポスター制作費	29,420	株式会社グローバルメディアソリューションズ	50,000
雑費	28,016	株式会社JTB法人東京	50,000
2. 関西イベント運営費	867,404	住友生命保険相互会社	20,000
関西参加ゼミ説明会	5,980	4. 協賛金収入見込	75,000
関西第1回勉強会	6,800	株式会社ジースタイラス(成果報酬)	75,000
関西第2回勉強会	6,885	5. 前期繰越金	1,099,445
関西ディスカッショングループ	550	関東支部繰越金	608,081
関西第1回中間発表会	22,862	関西支部繰越金	491,364
関西第2回中間発表会	1,100		
政策シンポジウム	823,227		
3. 広報費	353,208		
広報諸費	53,208		
webサーバー諸費	11,410		
名刺代	36,840		
ニュースレター諸費	4,958		
機関誌費用	300,000		
発行費	280,000		
送料	20,000		
4. ISFJ運営費	565,398		
出張費	136,000		
2006年度出版費用	250,420		
2006年度出版費	250,000		
振込手数料	420		
論文審査費	5,655		
事務備品費	9,524		
企業渉外費	6,334		
運営渉外費	151,810		
関東前期支払い分	35,350		
関東後期支払い分	100,380		
関西支払い分	16,080		
当期支出合計	2,193,650		
5. 次期繰越金	1,446,460		
支出合計	3,640,110	収入合計	3,640,110

2009年度に向けて

今年度の活動を踏まえ、私どもの活動をより発展させていくべく、以下の事項に基づき行動をしていきます。

【政策提言の強化】

ISFJは「学生の政策提言による、望ましい社会の実現」を理念としています。理念に即した活動をさらに充実させるため、以下のことを実施していきます

論文審査制度の見直し

論文を書く参加者の方々がより政策提言を意識して論文を書くことのできるよう、政策提言の評価を重視した審査体系を確立します。

立案された政策をもとに行う提言活動の拡充

望ましい社会を実現するため、官庁・関係機関に向け実際に提言活動を行い、提言された政策を広く広報活動していきます。

より良い提言の場を目指して

参加者の方々に、より政策意識の高まる企画を提供するため、年間の企画や提出物について見直しを進めます。

【内部業務の効率化及び情報共有体制の強化】

長年の活動によるノウハウの蓄積を生かし、業務の効率化を行い、政策提言活動にち重点を置きます。

【さらなる組織の拡大】

ISFJ日本政策学生会議の活動は、ゼミを受け持つ教授の方々や、過去にご協力をいただいた方々の間では広く浸透している感がありますが、まだまだ全国規模の組織として確立できているとは言えないのが現状です。そこで、ISFJの活動をさらに多くの皆様に知ってもらうための認知度の向上、多くの学生に参加していただく参加規模の拡大、運営委員の基盤の拡大を目指します。

協賛企業・後援団体

【特別協賛企業】



富士通株式会社

【協賛企業】



極東証券株式会社



株式会社ディーエイチシー



株式会社ジースタイラス



パナソニック株式会社



株式会社ベインキャリージャパン



加藤産業株式会社



by ダイヤモンド・ビッグ&リード

株式会社ダイヤモンド・ビッグ&リード

【後援団体】

内閣府 経済社会総合研究所

財団法人 松下政経塾



株式会社キャリアデザインセンター



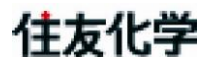
株式会社グローバルメディアソリューション



株式会社アシストバルール



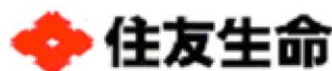
株式会社有斐閣



住友化学株式会社



株式会社 JTB 法人東京



住友生命保険相互会社

参加大学・研究会一覧

【東日本】

青山学院大学	熊谷彰矩研究会
宇都宮大学	中村祐司研究会
慶應義塾大学	河井啓希研究会
慶應義塾大学	吉野直行研究会
慶應義塾大学	跡田直澄研究会
慶應義塾大学	大村達也研究会
慶應義塾大学	竹森俊平研究会
慶應義塾大学	土居丈朗研究会
慶應義塾大学	櫻川昌哉研究会
慶應義塾大学	白井義昌研究会
慶應義塾大学	樋口美雄研究会
創価大学	高橋一郎研究会
中央大学	横山彰研究会
千葉大学	倉阪秀史研究会
東京大学	高原明生研究会
東北大学	鴨池治研究会
東北大学	西澤昭夫研究会
日本大学	都市計画研究室
日本大学	豊福建太研究会
一橋大学	佐藤主光研究会
明治大学	加藤久和研究会
明治大学	戸崎肇研究会
明治大学	高浜光信研究会
明治大学	斎藤雅己研究会
明治大学	勝悦子研究会
明治大学	千田亮吉研究会
明治大学	畑農鋭矢研究会
明治学院大学	西村万里子研究会
横浜市立大学	藤野次雄研究会
立教大学	高原明生研究会
早稲田大学	須賀晃一研究会
早稲田大学	藪下史郎研究会

【西日本】

大阪大学	山内直人研究会
大阪大学	野村茂治研究会
同志社大学	伊多波良雄研究会
同志社大学	山田礼子研究会
同志社大学	八木匡研究会
京都大学	吉田和夫研究会
京都大学	岩本武和研究会
神戸大学	松林洋一研究会
神戸大学	菊池徹研究会
神戸大学	地主敏樹研究会
神戸大学	石原享一研究会
神戸大学	石黒馨研究会
神戸大学	忽那憲治研究会
神戸大学	岩壺健太郎研究会
近畿大学	大内秀二郎研究会
名古屋大学	多和田眞研究会
北九州市立大学	古賀哲矢研究会
大阪市立大学	朴一研究会
大阪市立大学	山下英次研究会
九州大学	細江守紀研究会
立命館大学	宮脇昇研究会
立命館大学	古川彰研究会
関西大学	鵜飼康東研究会
関西大学	林宏昭研究会
関西学院大学	井口泰研究会
京都産業大学	田中寧研究会
京都産業大学	岑智偉研究会
京都産業大学	福井唯嗣研究会
京都産業大学	藤野敦子研究会

28 大学 61 研究会

ISFJ 日本政策外政会議 活動報告書 2008

代 表 後藤洋平（早稲田大学）

編集者 青木陽介（早稲田大学）

執筆者 明石和也（慶應義塾大学）

落合あゆ美（明治大学）

矢野恵利子（早稲田大学）

川田茉侑（立教大学）

荒田龍馬（神戸大学）

花田滋（大阪大学）

山田有里子（同志社大学）

柴田清史（同志社大学）

伊東貴則（大阪大学）

発 行 2009 年 1 月 18 日

連絡先 info@isfj.net